



Vol.181

令和7年度7月号

今年もバス・バスターズ、協力ありがとうございました。

ラムサール条約登録40周年のバス・バスターズ



令和7年のバス・バスターズの活動が5月から6月にかけて実施されました。今年は大雨による増水等のため2回が中止となり、実施できたのは3回でしたが、延べ74名の方々に参加していただきました。ご参加いただきましたKDDI㈱東北総支社様、迫リコー㈱様など各企業の皆様、築館高校の皆様や個人でご参加いただきましたボランティアの皆様にはあらためて感謝申し上げます。

また、今年は伊豆沼・内沼がラムサール条約登録40周年にあたり、東北地方環境事務所が作成した記念手拭いが参加した皆様に配られました。

今年の活動では、人工産卵床へのオオクチバスの産卵数が5か所で、昨年の約3分の1に抑制できました。また、三角網で捕獲されたオオクチバスの稚魚はわずか1匹でした。

これらの結果は、バス・バスターズをはじめとした駆除活動によりオオクチバスの繁殖が抑制できた成果だと考えております。

一方、ゼニタナゴの稚魚が24個体確認された（国内希少野生動物種に指定されているためすぐに放流しました）とともに、在来種のスジエビも久々に確認され、伊豆沼の生態系が改善されつつあると考えています。

来年度もバス・バスターズの活動は継続する予定です。バス・バスターズへの参加をおして、胴長を着用しての伊豆沼内の生態調査や、いろいろな魚を間近で観察するなどの体験をしていただければ喜ばしい限りです。



いざ、沼へ



みんなで卵を確認中



ゼニタナゴの稚魚



在来種のスジエビ



確認されたオオクチバスの卵

ヒシ刈りロボットボートの開発

6月6日から8日にかけて、東京大学海津准教授とそのチームが開発したロボットボートによるヒシの刈り取り試験が行われました。

現在の伊豆沼・内沼では、ハスが減少し、ヒシが大きく増加しています。ヒシが繁茂すると、水中の酸素が少なくなり、魚が棲みにくくなるなどの悪影響が出る恐れがあります。そのため、ヒシの量をコントロールし、水中の酸素量を増やす技術の確立が必要です。

試験の当日はまだヒシの生育量が少なかつたため、ヒシの刈り取り作業は順調に進みました。ヒシの生育初期に刈り取り作業を行うことで、効果的なヒシの除去の実現を目指しています。



宮城県議会環境福祉委員会 伊豆沼視察



主池で湿地の植物について説明



オオクチバス駆除の成果で在来魚が戻ってきたことの説明

5月30日に宮城県議会環境福祉委員会10名が伊豆沼・内沼を視察されました。

センターの研修室で伊豆沼の環境保全についての概要説明のあと、水生植物園を視察しました。ここは希少生物の系統保存、自然体験活動の実践、一般の来訪者の散策など多面的な機能を持ち、こうしたワイルドユース（湿地の賢明な利用）を積極的にすすめている場所です。視察しながら、外来種の現況をはじめとする質問や復元したジュンサイに見入るなど、伊豆沼への強い関心が感じられました。

こうした視察を通じて県民の伊豆沼への認識が高まることをきたいしています。

この花、実は特定外来種です～オオキンケイギク～

6月20日、伊豆沼近くの道路の脇に、美しいキクの花が咲いていました。どなたかが管理されているようですが、周囲には柵なども設置していました。ここまで花を増やすためには、多くの愛情を注ぎ、丹精込めて世話をされてきたことでしょう。頭が下がる思いです。この花が特定外来種でなければ……。

オオキンケイギクは、我が国の生態系に悪影響を及ぼす恐れがあるため、「特定外来種」に指定されており、栽培や生きたままの運搬、販売などが禁止されています。もし見かけた場合は、必ず枯らしてから各自治体のゴミの処理方法に従い処分してください。美しい花を処分するのは心が痛みますが、オオキンケイギクに住みかを奪われる生き物をこれ以上増やさないためにも、その駆除が望れます。



道路脇に咲く
オオキンケイギク

花の直径は5~7cm、草丈は50cm前後で、葉の両面にはあらい毛が生えることが多い。



〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畠岡敷味17-2
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

Tel 0228-33-2216 Fax 0228-33-2217
ホームページ: <http://izunuma.org/>
E-mail: izunuma@circus.ocn.ne.jp

